

委員会調査（研修）報告書

平成29年 7月12日

胎内市議会議長
森田幸衛様

(報告者) 厚生環境常任委員長

渡辺 栄 六

厚生環境常任委員会行政視察について、
議会会議規則第110条により、下記のとおり報告します。

調査・研修 日 時	自 平成29年 7月 4日 至 平成29年 7月 6日 2泊3日 (3日間)	調査・研修 場 所	東京都品川区 ヘルスケアタウ ンにしおおい 長野県松本市 松本市役所
調査・研修 事 項	① 小学校廃校跡地で高齢者ケアホーム、認可保育園、介護予防拠点の3事業を運営している複合施設を視察。 ② 食品ロス削減に先進的に取り組んでいる松本市を視察。		
調査・研修 出 席 者 (参加者)	渡辺栄六、森本将司、渡辺宏行、高橋正美、榎本丈雄 小野徳重、渡辺秀敏、佐藤陽志、八幡元弘		
相 手 方 (対応者)	7/4 品川区議会事務局調査係長 中村 真介 高齢者地域支援課長 松山 香里 ヘルスケアタウンにしおおい事務長 蔭山 尚之 7/5 松本市議会建設環境委員長 田口 輝子 松本市環境部環境政策課 三沢 眞二		

調査の結果または概要

7/4 ヘルスケアタウンにしおおいは、品川区の小中一貫教育による新たな小中一貫校舎設立により、移転した品川区立原小学校跡を活用し、旧校舎を改修して“高齢者や就学前の児童が安心していきいきと過ごせ、地域の方々と交流できる所”を目的とした施設で2009年3月に開設された。

「ヘルスケアタウンにしおおい」とは、要介護高齢者向け優良賃貸住宅「ケアホーム西大井」、元気な高齢者の活動拠点「西大井いきいきセンター」、認可保育園「キッズタウンにしおおい」からなる複合施設である。

品川区との協定により、鳥取県を本拠地とする「社会福祉法人こうほうえん」が事業展開と管理・運営をしている。

7/5 松本市では、食育の推進、生ごみの削減の観点から、“もったいない”をキーワードとして、あらゆる世代、家庭や外食時などさまざまな場面で食べ残しを減らす取り組みを進めている。

調査の所見・感想

◇ヘルスケアタウンにしおおいは、子どもから地域の方々、そして高齢者までが共存する施設でなおかつ、廃校の小学校を使った社会資源を有効活用する事業として注目度は高い。だが、約11億円ほどの改装費を賄うためには、複合施設でなければ収支が合わないと思われた。

高齢者向けの住宅は入居基準が要介護認定者となっており、私財を整理し入居されていると思われる方などもおられ、いわば終の棲家ともいえる。一方、改装した施設の耐用年数を考えると将来的に持続可能な施設としての懸念がある。しかしながら、高齢者と児童の交流や、相互の醸成効果は期待される施設であり斬新的事例であると認識した。

◇松本市では、食品ロス削減のため、「残さず食べよう！30・10運動」を推進している。宴会や会合において、乾杯後の30分間とお開き前の10分間は席について、料理を楽しもうというものである。幹事さんを中心に、冒頭でアナウンスすることにより、食品ロス削減につながっている。また、30・10運動は、全国的にも広がりを見せており、30・10運動に取り組んでいる自治体も増えている。

あわせて、30・10運動の家庭版として毎月30日を「冷蔵庫クリーンアップデー」、毎月10日を「もったいないクッキングデー」として推進している。そのほか、食品ロスを減らすために、園児を対象に参加型の環境教育をしたり、大学と連携して食品ロスを減らすレシピを考案したりと、多様な年代に対してアプローチしていることに感心させられた。

さらに、松本市は首長はじめ行政が率先して、食品ロス削減のために取り組み、店・客・行政それぞれが同じ意識を共有する取り組みには、大きな価値がある。

本市においても、食品ロス削減の取り組みを広げていきたい。